

留学生座談会

関西大学理工系学部では、海外の大学と部局間協定を結び、短期留学生を受け入れている。今年度はタイから1名、アメリカ合衆国から3名の留学生が訪れ、KU-SMART PROJECTにも関わりのある研究に励んだ。座談会を通して、リアルな声を聞いた。



写真 左から

聞き手
岩崎泰彦先生
化学生命工学部
化学・物質工学科 教授

ヨクさん
Slocha SAPASAKULVANIT
タイ・チュラロンコン大学
理学部 化学科
4年次生

ジェンさん
Gentry BOWEN
アメリカ・クレムソン大学
バイオエンジニアリング学科
4年次生

ホイットニーさん
Whitney SCHRODER
アメリカ・クレムソン大学
バイオエンジニアリング学科
4年次生

ジェイコブさん
Jacob TURNER
アメリカ・クレムソン大学
バイオエンジニアリング学科
4年次生

—なぜ留学先として関西大学を選んだのですか？

ジェイコブ もともと海外留学に対し興味があり、日本にも訪れたいと思っていましたが、日本語ができないことが障壁でした。ある日、長富先生^{*1}から関西大学で研究する機会があることを教えてもらい、来日を決めました。

ヨク 私は留学できる大学でどのようなプロジェクトが進められているかを色々調べたのですが、バイオマテリアルに関連した研究ができる大学は関西大学だけだったので、トライしてみようと思いました。

ホイットニー ジェイコブと同じで、長富先生とお話をして来日を決めました。アジアは初めてです。夏休みを利用して海外で研究できることに、たいへん興味を持ちました。また関西というのも魅力的でした。京都や奈良へ簡単に行けますから。

—携わった研究について教えてください。

ジェイコブ 私は光線力学的療法に有効な金属ナノクラスターについて研究しています。タンパク質を用いて調製したナノクラスターに有機色素を複合化することによって、高いPDT効果が得られます。将来、それらが化学療法や放射線療法に替わる新たながんの治療法に展開されることを期待しています。

ヨク 私は細胞が分泌する成分を用いた新たなバイオマテリアルの開発を行っていま

す。具体的には、循環器再生医療への応用を目指し、細胞外マトリクス (ECM) の改変技術を検討しています。

ホイットニー 私は生分解性のインジェクタブルポリマーとナノ粒子を組み合わせた新しいDDS担体の開発を行っています。薬剤の放出を



厳密に制御するために、ナノ粒子のサイズやポリマーの濃度などのパラメータを変化させたときの影響を検証しています。

ジェン 私はポリリン酸エステル免疫賦活能について検討しています。疎水性基を持つポリリン酸エステルを表面修飾したリポソームを調製し、抗原提示細胞への取り込みについて調べています。将来、この技術のがん細胞の表面修飾に



—来日前に期待したことはありますか？来日してどうでしたか？

ジェイコブ 私は旅行をすることも楽しみにしていました。西洋とは全く違う文化を持っていた国が、開国から現代に至るまでのすごい早さで西洋の文化を取り入れ、いまやテクノロジーや経済の面でも世界のリーダー的存在になっていることに驚きます。その一方で日本独自の伝統的な面も

残っているので、とても興味深いです。

ホイットニー 私は東京と広島を旅行しました。レストランではメニューが読めないで、写真を見て多分こんなものだろうな、と思って注文しましたが、70%は違うものが出てきました (笑)。ここでわかったことは、とりあえず注文して食べてみて、そしてそれが何なのかを知る、ということです。

ヨク 日本語は、カタカナは読めるし構文も勉強しましたが、話すことができません。時々、日本語で話しかけられても、理解できないことが多くて残念でした。



—関西大学の研究環境はどうでしたか？

ジェイコブ 本国の私がいたラボでは、それぞれが自分の研究にのみ集中しているのに比べ、関西大学はプロジェクトでの研究がより行われていると思いました。

ジェン ここでは一生懸命勉強しましたし、自分の大学より研究に触れる機会が多かったと感じています。1日の研究時間が長かったです (笑)。Japanese styleですね。

ホイットニー でも関西大学での研究は本当におすすりです。様々な機器の操作も覚えられて、素晴らしい経験になりました。

(7月10日、岩崎研究室にて)

(注) ^{*1} 長富先生：クレムソン大学 バイオエンジニアリング学科 長富次郎教授